

児童発達支援 事業所における自己評価結果(公表)

事業所名:綾部市療育教室「あいむ」

公表日:令和 6年 4月 15日

区分	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			
	2 職員配置数は適切であるか	○			
	3 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境であり、バリアフリーなどの配慮が適切になされているか	○			
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	○			
	5 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			今後も保護者の方の要望や意向をその都度把握し、業務改善に努めます。
	6 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の通信やホームページ等で公開しているか	○			綾部市のホームページで公開しています。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		○		上記の評価に基づいて、外部評価が必要な場合は考えていきます。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○		職員研修を実施したり、外部の研修へ参加したりしています。	今後も、より一層の職員研修の充実を図っていきます。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○			
	10 子どもの適応行動の状況を計るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか		○		標準化されたアセスメントツールを使用するデメリットも考慮した上で、子どもの状態によって必要性がある場合には、アセスメントツールの使用も検討していきます。
	11 児童発達支援計画には、具体的な支援内容が設定されている	○			
	12 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○			
	13 活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			
	14 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			子どもの年齢や、発達段階、活動への興味関心などを考慮しながら、今後も活動プログラムを組み立てていきます。
15 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせているか	○		5人程度の集団活動の中で、個々に応じて難易度を変えた活動を実施しています。	今後も、小集団の中で個別性を重視した療育を実施していきます。	

区分	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
	16	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			
	17	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			
	18	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			
	19	モニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○			
	20	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○		保健師、生活支援センターえがお、綾部市こども家庭支援相談室等との連携をとっています。	今後も関係機関との連携を密に行っていきます。
	21	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	○			
	22	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	○			必要に応じて、医療機関でのカンファレンスに出席したり、リハビリテーションの様子を見学させていただいたりします。
	23	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		保護者・園・療育教室の三者で、連絡ファイルのやりとりを行い、子どもの様子についての共通確認を行っています。	依頼があった場合には、通所児童の在籍園の先生が療育教室に見学に来られたり、療育教室職員が園へ訪問させてもらったりしています。今後も、連携を深めていきます。
	24	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		学校教育課とも連携し、移行支援ファイルの作成や、就学予定校との連絡会を行っています。	
	25	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○			近隣市の児童発達支援事業所や中丹支援学校の教育支援センターとは引き続き連携を図ります。
	26	自立支援協議会等へ積極的に参加しているか	○			
	27	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		昨年度より、低年齢児や新規の通所児については親子同室での療育を再開しました。	今年度も感染症対策を講じた上で、子どもの様子や年齢を考慮した親子療育、観察室での参観等の実施をすすめています。
28	保護者に対して交流会や懇談会、家族支援プログラム等が行われ、保護者同士の連携を支援しているか	○		各クラス毎に、2ヶ月に1回の保護者交流会を実施しました。また、先輩保護者との交流会も例年通り実施しました。	今年度も2ヶ月に1回を目安に、各クラス毎の保護者交流会を実施していきます。また、全クラス対象のイベントも昨年度より再開しました。	

区分	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	29 運営規程、利用者負担、支援計画(内容)等について丁寧な説明を行っているか	○			
	30 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			
	31 子どもや保護者からの苦情について、対応の体勢を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			
	32 定期的に通信等で活動概要や行事予定の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			月1回のあいむ通信で、活動の予定を発信しています。今後は、ホームページでの発信を検討していきます。
	33 個人情報の取扱いに十分注意しているか	○			
非常時などの対応	34 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか		○		各種マニュアルの作成に努めます。策定済みの感染症対策、非常災害等のマニュアルについては、保護者交流会等での周知をします。
	35 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		昨年度は、年少児クラス、年中児クラス、年長児クラスの計3クラスで火災を想定した避難訓練を実施しました。	今後は、全クラス対象に避難訓練を実施していきます。災害発生時の避難経路については、引き続き保護者にも周知していきます。
	36 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	○		昨年度に引き続き、てんかん発作のある子どもに対して、保護者との連携を行い、発作発生時のマニュアルを作成しました。	該当児の健康状態を保護者に確認し、必要に応じて医師の指示を仰ぎ、連携しながら対応していきます。
	37 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	/	/	食物アレルギーの有無については、通所前の面談で保護者に確認をしています。	現在、該当者はいませんが、該当者がある場合には保護者と確認し、医師の指示を要する際には連携しながら対応していきます。
	38 ヒヤリハットの事例を事業所内で共有しているか	○			
	39 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			
	40 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	○			これまでに身体拘束が必要な事例はありませんでしたが、組織的に身体拘束にあたる行為を確認しながら、より良い対応を行います。身体拘束が必要な場合には保護者の了承のもと、適切な対応をとるようにします。